

## 会津若松での一連の学外実習実施に関する略年表

小川 功

### Chronology of practice: Management of Tourism in relation to Aizu-Wakamatsu-shi

Isao OGAWA

平成26年10月末認可された新学部設置に際して、地域との連携の一層の強化や、学外実習のさらなる充実の方向性が全学的に確認され、申請内容に組み込まれた。その内容に沿った数多くの一連の学外実習の中で、とりわけ地域との正式の協定に準拠した会津若松市との協力関係の事例を資料として整備し、予め根拠資料として準備しておく必要から、筆者（小川）において取りまとめたものが、以下の略年表である。筆者は同時期に『跡見学園女子大学50年史』編纂委員をも委嘱されて、最新章である「第六章」の原稿を執筆する作業も行っていたことから、その原稿執筆の準備としての意味を兼ねていた。

本学ならびに「パートナーシップ協定」の相手側である会津若松市双方の公表資料を主たる典拠資料としたほか、以下の論文・資料・文献等により作成した。「略年表」としたのは会津若松市の観光商工部各位が公式非公式を問わず、本学を訪問されて学生達に熱心に“会津学”を講義・講演頂いた回数は数知れず、また本学学生達にも会津若松市側として「この他、イオンにおいて開催されている『桜咲く！会津フェスタ』等、首都圏における観光PR活動において跡見学園女子大学の皆様に多数のご協力」（文献①）を得たとの記述があるように、一連の関連諸行事の全てを網羅できていないためである。また一連の学外実習に関して幸いにも新聞雑誌やテレビ放送等でも相当数の掲載・放映を得ることができたが、今回の資料には掲載していない。

〔資料〕としての客観性を確保するため、学外実習そのものに対する評価に関する記述は記載せず、評価は以下の論文に委ねたが、「会津若松市 市長メッセージ」等、本学関係者以外の資料の記述は原文の表現をそのまま記載した。会津若松市当局ならびに各論文の著者に謝意を表す。

- ①「会津若松市と跡見学園女子大学との協力関係について」会津若松市観光商工部、平成26年9月
- ②山崎一穎「網淵謙錠『苔』（たい）に見る会津人一転換期の歴史小説考一」『跡見学園女子大学観光マネジメント学科紀要』第4号、平成26年3月、p3～9
- ③小川功「観光教育における東北・震災の視点—東日本大震災を踏まえて—」『FDジャーナル』第10号、跡見学園女子大学、平成23年3月、p49～52
- ④篠原靖・村上雅巳・小川功「東日本大震災と観光デザイン教育—会津若松を学びのフィールドとして—」『FDジャーナル』第11号、平成24年3月、p25～28
- ⑤村上雅巳「東日本大震災とインターンシップ—観光政策の視点から—」『跡見学園女子大学観光マネジメント学科紀要』第2号、平成24年3月、p73～75
- ⑥篠原靖「女子大生の視点で会津復興へ」『跡見学園女子大学観光マネジメント学科紀要』第2号、平成24年3月、p77～79
- ⑦松澤和「観光インターンシッププログラムに参加して」『跡見学園女子大学観光マネジメント学科紀要』第2号、平成24年3月、p83～84
- ⑧小川功「授業実践 観光デザイナー教育の試行」『FDジャーナル』第12号、平成25年3月、p177～180
- ⑨村上雅巳・小川功「ニューツーリズム時代の観光デザイン教育の試行」『FDジャーナル』第13号、平成26年3月、

p168～170

- ⑩村上雅巳「大学連携による地域貢献—観光デザイン能力の人材育成の視点から—」『FD ジャーナル』第13号、平成26年3月、p165～167
- ⑪篠原靖・小川功「公開講座 新しい観光デザインの試行と“人物観光”—会津・沖繩・別府・富山の取組みと今後の可能性を探る—」『FD ジャーナル』第13号、平成26年3月、p156～157
- ⑫藤沼絵理子「会津など地域活性化プロジェクトに参加して」（『跡見学園女子大学五十年史』平成27年、卒業生寄稿文収録）

#### [表－1] 会津若松での一連の学外実習実施と関連諸行事等の略年表

- 平成23年3月11日 東日本大震災発生、会津若松市の風評被害深刻化。本学では東北震災復興の支援の方策等につき種々検討中のところ、その一環として観光マネジメント学科において福島県下の会津地域を舞台とする地域振興・観光振興への協力を以下のように順次具体化した。
- 平成23年9月12日～13日 原発風評被害で観光客が激減した会津若松市への第1回会津若松学外実習を実施、現地調査を重ねて深刻な風評被害の実態を肌で実感した学生が翌13日会津若松市長を表敬訪問し支援の意思を表するとともに、観光に関する自分達の率直な意見と提案を市長に表明。
- 平成23年10月 本学大学祭で学生が会津の観光PR、物産販売等を開始。
- 平成24年1月6～7日 学生が「跡見女子大生がつくる極上の会津女性の旅」企画研修旅行で会津若松を再訪問、女性向け旅行商品化等の観光デザイン進行状況を市長に報告。
- 平成24年7月5日 双方の友好関係の醸成を受けて正式の「パートナーシップ協定」締結の最終段階にあたり、会津若松市長以下市役所幹部が本学を公式訪問、学長以下関係教員と協議後に懇談。
- 平成24年7月25日 「跡見学園女子大学学生のインターンシップを受け入れたことがきっかけ」（市長メッセージ）となって学術研究や地域活性化、人材育成を通し本学と会津若松市の資源を相互に活用し協力する「パートナーシップ協定」を締結。「今後は、人材育成などを通して、協力体制を確立していくこと」（市長メッセージ）を双方で確認。
- 平成24年9月3～7日 第2回会津若松学外実習を実施（観光施設、ボランティア団体、会津若松観光物産協会との産官学連携）、現代版の八重さんのような会津女性5名からお話を聞くなど、地元の人々との交流を緊密化。「パートナーシップ協定を結んだ跡見学園女子大学生に会津観光を学んでいただき、その内容を旅行商品企画に結び付けました」（会津若松市 HP）
- 平成24年10月5日 室井照平会津若松市長は就任1年目の市長メッセージで「震災からの復興を図る上においては、地域間さらには大学などとのネットワークが不可欠であり…跡見学園女子大学とのパートナーシップ協定などを締結したところであります。こうした明るい話題、さらには全国各地の皆さんとの交流を契機として、観光誘客の促進はもとより地域活力の活性化、ひいては会津の再生につながるよう取組みを進めて参ります」（会津若松市 HP）と明るい話題として連携先の本学の名も挙げた。
- 平成24年12月15～16日 「心のくつした便ボランティアサンタさん」「会津まちの駅交流観光」事業として、大熊町仮設住宅の住民にクリスマスプレゼントを配るイベントに本学学生もサンタ役で参加。
- 平成25年3月20日 会津復興支援シンポジウム「新島八重と跡見花蹊～幕末から明治を駆け抜けた女性～」を会津若松市の後援を得て本学で開催。会津若松市長、「現代の八重」の会津女性をはじめ、会津若松市民多数参加。
- 平成25年4月1日 産官学連携で“人物観光”旅行商品『現代の八重に会いに行こう！』を開発し、大手旅行会社の日本旅行から販売開始。
- 平成25年4月13～14日 学生が会津若松を訪れる特別企画ツアー実施、  
13日昼食時に本学園山崎一穎理事長、山田学長以下が会津若松市長以下市役所幹部の歓迎を受けて懇談。  
14日会津藩校「日新館」ホールにおいて会津藩校「日新館」宗像精館長と本学園山崎一穎理事長とにより、「時代を先駆けた教育者新島八重、跡見花蹊と会津の教育文化」と題する対談を開催。

- 平成25年8月27～31日 第3回会津若松学外実習を実施し、「二度目の会津女子旅」をテーマに隠れた魅力の発掘等に取り組む。
- 平成25年11月9日 本学公開講座「新しい観光デザインの試行と“人物観光”①」で会津若松との産官学連携“人物観光”の事例を詳しく紹介。
- 平成26年4月5日～6日 観光マネジメント学科の新生全員の学外実習（1泊研修旅行）を会津若松で実施。当時会津若松の「極上の会津プロジェクト協議会」が会津若松駅前広場で開催した「ふくしまDESTINATION CP」の前年に実施する「プレDC」イベント「会津若松駅前物産市」に併せて、会津若松駅に到着する新潟市長を乗せたSL列車「ばんえつ物語」など、各方面からの記念列車の乗客を会津側のキャストとして会津弁でお迎えする大役を新生が演じた。本番の「ふくしまDESTINATIONキャンペーン」は翌2015年4月から6月に「福が満開、福のしま。」を合い言葉にJRグループ主導下に「福島県観光復興キャンペーン委員会」が開催する国内最大級の観光キャンペーン。
- 平成26年5月18日 会津若松の復興を支援する「会津応援隊」総会を本学で開催し、学生・教員ら参加、本学学生2名が副隊長就任。
- 平成26年7月末日 上記のような地域との連携実績等により、先方の公費負担を伴う平成26年学外実習受入れが正式決定。市側から示された学外実習の研修課題はNHK大河ドラマ「八重の桜」終了後に観光客が減少傾向にある会津若松のあるべき観光デザイン（主に学校向研修旅行コース等）を女子大生ならではの視点から具体的に提言すること。
- 平成26年8月5日 本学学長より直接、会津若松市長に第4回会津若松学外実習や、新学部設置認可された場合の来春以降の継続的な学外実習の受入れ方を正式に依頼し、「パートナーシップ協定」の精神に基き快諾される。
- 平成26年8月14日 会津からの講師を招き、会津の歴史・文化等に関して参加学生の事前研修開始。
- 平成26年9月10日～14日 会津若松市での4泊5日間の学外実習を実施し、課題を達成するために現地で修学旅行等の生徒達の自主研修に相応しい観光コンテンツを見聞、住民、関係者との対話を重ね、会津の歴史・風土・文化に触れる現地調査旅行の日程を学生達自身で観光デザイン。最終日に会津若松市役所において、室井市長、商工観光課長ら幹部職員に学外実習の成果としての観光デザインを発表、評価を受ける。（参加学生9名、引率教員2名）。

[資料] 本学側公表資料、会津若松市 HP（[www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs](http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs)）、「会津若松市 市長メッセージ」（[www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp](http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp) 秘書広聴課）（いずれも平成27年1月10日検索）等により作成。